

本調査研究の要約

要 約

本調査は、本県の中学校段階での漢字の読み書きの状況について調査と分析を行い、それをもとに、小学校で学習した学習の定着と中学校で学習する漢字の効果的な学習の在り方について考察を加えたものである。具体的には、調査研究協力校で実施した意識調査と実態調査の結果をもとに、授業中におけるワークシート活用の試みと帯单元的な学習の取組について述べる。

キーワード

「漢字学習についての実態把握」「効果的なワークシート」「帯单元的な学習」

1 主題設定の理由

今日、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わろうとしている。国語科においても新学習指導要領の中で、相手のことを意識しながら「伝え合う」ことが強調され、指導の在り方が問われている。「伝え合う力」は、「聞く・話す力」「書く力」「読む力」が総合的に、そして有機的に作用したとき初めて発揮される力であり、国語科の学習を通じて子どもたちに身に付けさせる必要のある言語能力である。このような力を身に付けさせるためには、様々な基礎的・基本的な知識や能力を習得させることが必要である。今回、国語科における基礎・基本の定着を考えるに当たっては、最も基礎的な事項となる漢字の読み書きに関する習得状況について実態調査に取り組み、その分析をもとに、具体的実践を行うことで、本県の子どもたちの実態に即した、基礎・基本の定着の在り方の方向性を提示することにした。

そのため、本センターが平成13年度に実施した中学校教育課程実施状況調査の漢字に関する内容及び平成11年度に財団法人日本教材文化研究財団が実施した「生きる力が育つ漢字の学習」調査研究等の結果をもとに、新たに、本研究の協力学校において実態把握のための調査を実施し、漢字の習得状況を把握し、これらの分析から、効果的かつ効率的な漢字学習の在り方を構想し、その有効性について検証を進めることにした。

2 研究仮説

中学校における漢字の習得状況を多角的に把握し、分析を加えることにより、漢字の読み書きの能力の定着を図る効果的な指導の在り方について考察し、その実践を行えば、漢字の力の向上が図られ、ひいては本県の基礎学力の定着につながるのではないかと仮説を立てた。

3 研究内容

(1) 実態把握のための調査の実施及び分析

- ・平成13年度中学校教育課程実施状況調査結果分析
- ・平成11年度財団法人日本教材文化財団「生きる力が育つ漢字の学習」調査結果分析
- ・研究協力学校（第2学年）における実態調査の実施と結果分析

(2) 単元を通して効果的・効率的に漢字の定着を図る指導の工夫

（ワークシート、帯单元的な取組、家庭学習との関連指導等）

(3) 実践の成果をみるための調査の実施

(4) 今後の指導の在り方についての提言のまとめ

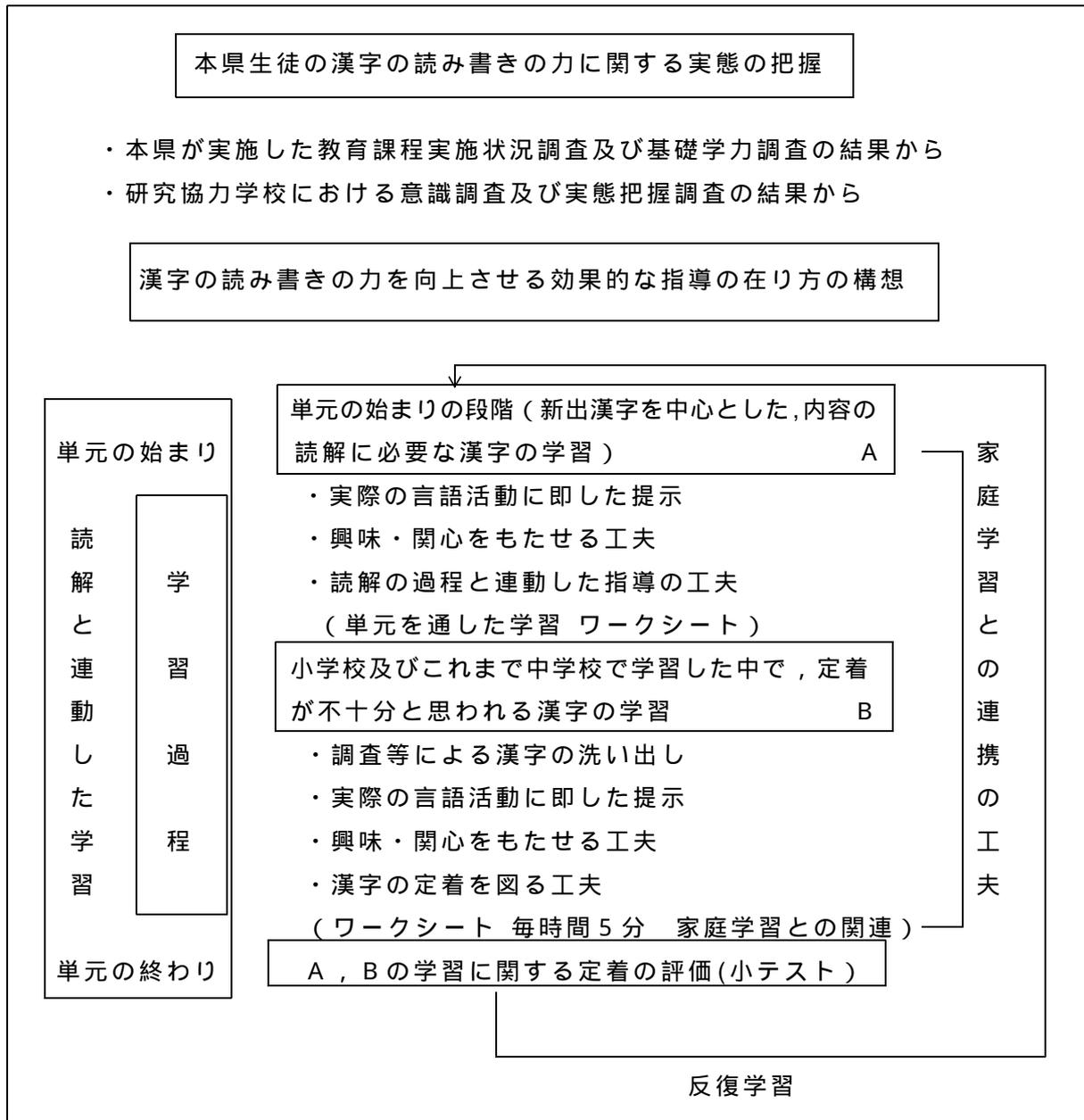
4 研究経過

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸調査の結果分析 ・ 調査研究の全体構想立案
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究協力学校訪問 ・ 研究の方向性検討・研究計画作成
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態把握のための調査問題及び意識調査アンケート作成 ・ 研究内容の具体的準備（ワークシート作成等）
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態把握のための調査及び意識調査アンケートの実施・集計・分析 ・ 研究内容の具体的準備（ワークシート作成等）
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究内容の具体的準備 ・ 研究協力学校との打合わせ
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを用いた研究実践（約1ヶ月間継続して行う。） （授業・ワークシート・家庭学習等）
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果検証のための実態調査用紙の作成
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果検証のための実態調査用紙の作成
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果検証のための実態調査の実施 ・ 取組に関する成果の検証
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究成果のまとめ ・ 研究紀要作成
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究紀要の作成 ・ 次年度研究の方向性検討
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究紀要完成

研究の内容等については本センターの所員で構成されるプロジェクトチームで検討を加え、その結果をもとに、研究協力校と必要に応じて随時連絡を取り合って実施する。

5 研究の構想

(1) 漢字の読み書きの定着を図る学習指導の工夫



(2) 本調査研究で重点的に取り組む単元（中学校第2学年）

単元4 〔情報〕 「さまざまな情報を役立てよう」 （東京書籍）

題材	「小さな労働者」 「神奈川冲浪裏」 「文法の窓2 助詞のはたらき」 「言語 和語・漢語・外来語」	この単元全体を通しての 効果的かつ効率的な漢字 の指導の在り方について 構想する。
----	---	--

6 調査研究の実際

(1) 平成13年度中学校教育課程実施状況調査結果及び平成14年度中学校基礎学力調査の結果

ア 平成13年度中学校教育課程実施状況調査結果

- (ア) 漢字の読み ()内は正答率
 険しい (95.4%) 慰める (62.9%) 借用する (77.3%)
 (イ) 漢字の書き ()内は正答率
 拝む (37.1%) 築く (64.3%) 操作する (44.5%)

イ 平成14年度中学校基礎学力調査結果

- (ア) 漢字の読み ()内は正答率
 発芽 (92.0%) 敬う (77.0%) 納める (93.0%)
 (イ) 漢字の書き ()内は正答率
 希望 (88.0%) 禁止 (83.0%) 備える (50.0%)

二つの調査結果を示したが、これまでまだ2回の調査しか実施していないため、一概に判断はできないが、結果から考えると定着が十分であるとは言えない。

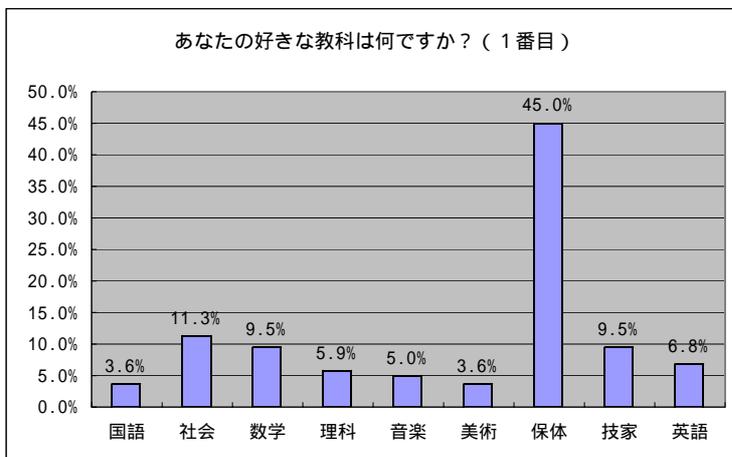
(2) 研究協力学校における実態調査

上記した二つの結果は2年間における限られた内容での実態であり、これでは本県の実態を把握するには不十分である。そこで、本調査研究の協力学校の第2学年において、漢字学習に関する生徒の意識と漢字の読み書きに関する実態調査を実施することにした。

漢字学習に関する意識調査については、本研究のプロジェクトチームで検討し、作成したが、漢字の読み書きに関する実態調査については、平成11年度に、財団法人日本教材文化研究財団が実施した「生きる力が育つ漢字の学習」調査の結果を参考に、その中で定着が十分ではないと考察されている、小学校で学習する漢字を中心に出題することとした。中学校で学習する漢字については、本プロジェクトチームで検討し、抽出することにした。

ア 漢字学習に関する意識調査の結果

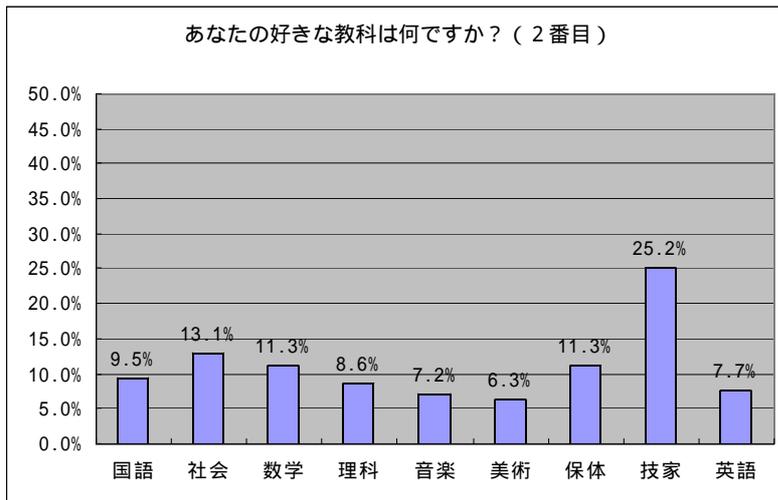
(平成14年7月実施 研究協力学校 第2学年 222名対象)



(ア) 好きな教科は何か？

左の結果は、中学校で学習する9つの教科の中で最も好きな教科を答えたものである。

国語と答えた生徒は全体の4%弱に過ぎず、生徒の国語に対する関心の低さがうかがえる。



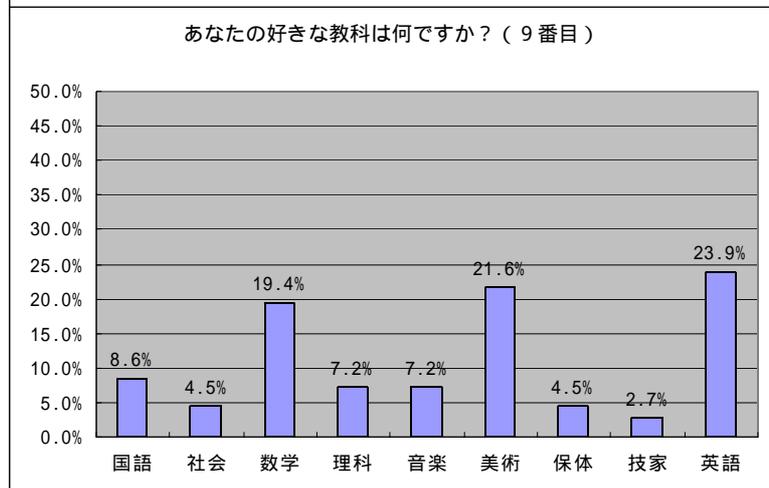
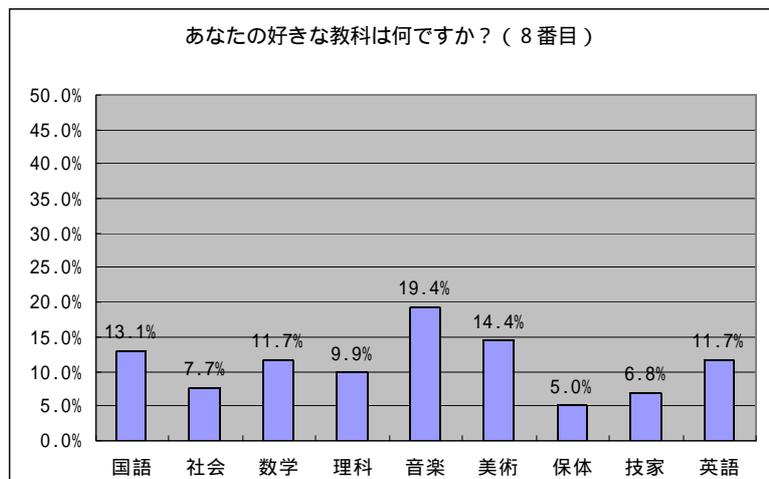
左の結果は2番目に好きな教科を上と同じように尋ねた結果であるが、同様に国語に対する関心が決して高くないことがうかがえる。

右に示した結果は好きな教科の8番目と9番目を答えた結果であるが、これを見ると国語を「あまり好きではない」と考えている生徒は、他教科と比較して多いとは言えない。

これまでに示した結果を見ると国語は生徒達にとって好きな教科ともそうでないとも言えない。

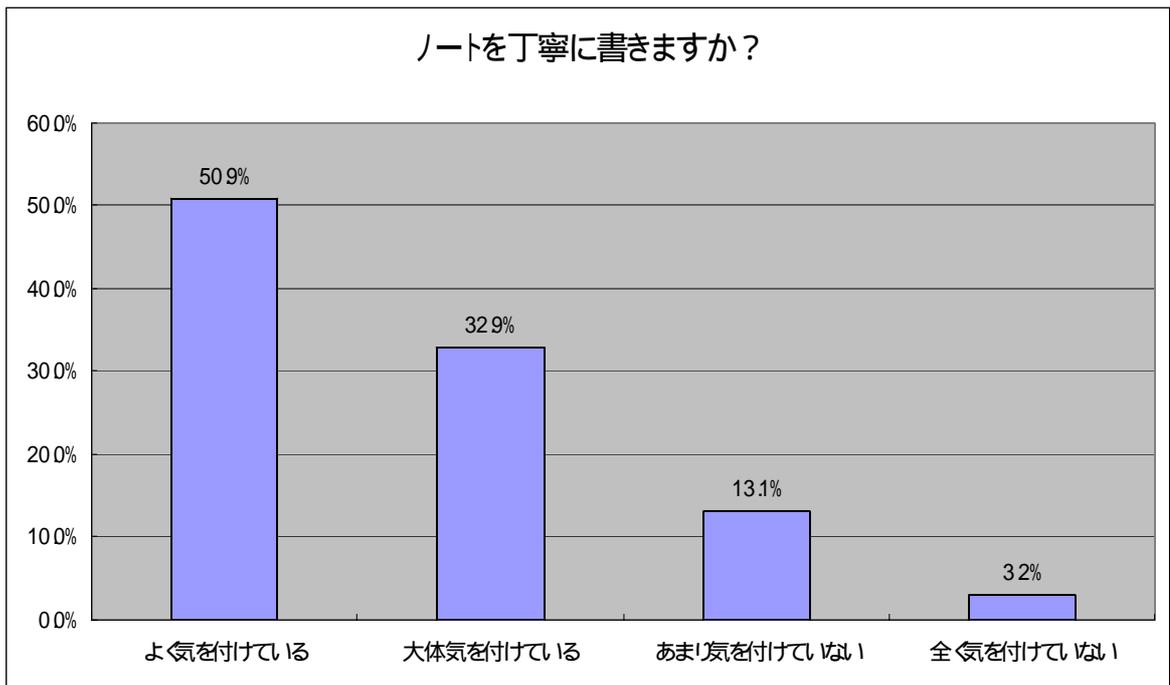
つまり、国語は自信を持って好きだとも言えないが、かといって嫌いな教科でもないということであり、国語科が現在学校で置かれている状況がわかる結果である。

したがって、取り組み方を工夫すれば、生徒の意識改善も可能ではないかと思われる。



(1) 授業中ノートを丁寧にしているか？

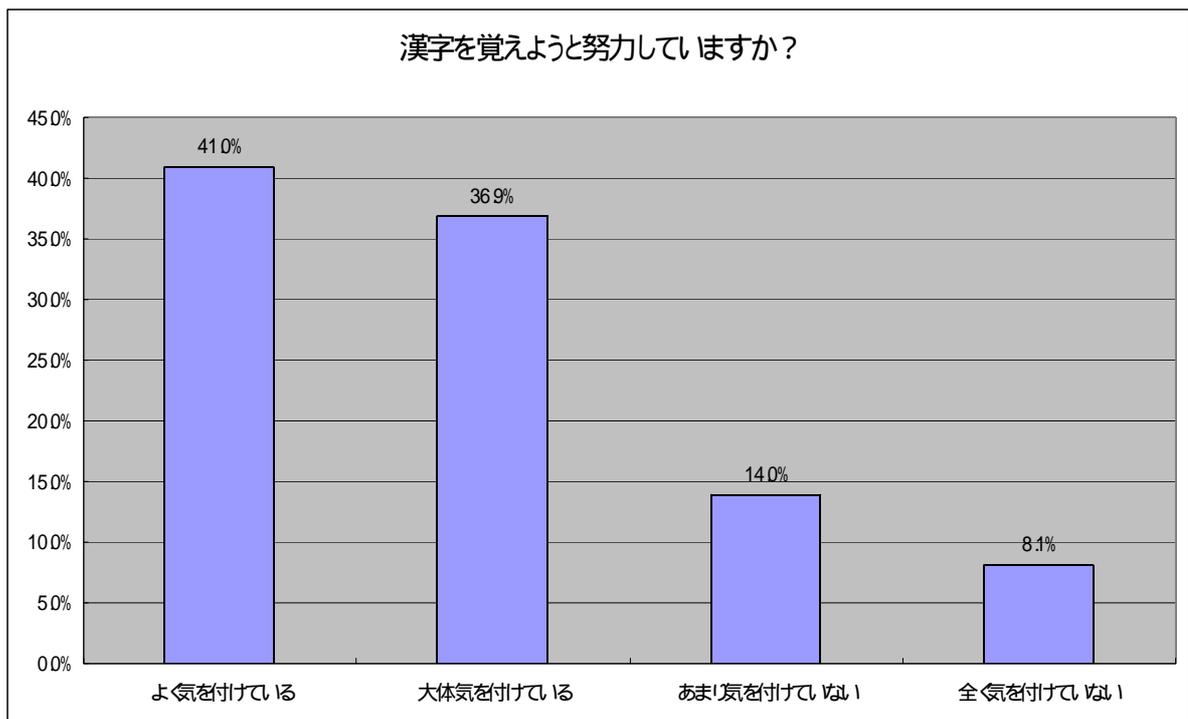
次に示す項目は、「国語の授業中にノートを丁寧に書いているか」について尋ねた結果である。調査研究協力学校の場合、「よく気を付けている」と答えている生徒が約半数、「大体気を付けている」と答えた生徒も含めると8割以上が意識して丁寧にノートを書いていると答えていることが分かる。調査研究協力学校の場合、指導が十分なされ、授業が充実して行われていることがうかがえる。授業中のノートは、漢字の実践的な使用の第一歩であるので、このような徹底した指導の実践が必要である。



(ウ) 新しく漢字を習ったとき覚えようと努力しているか？

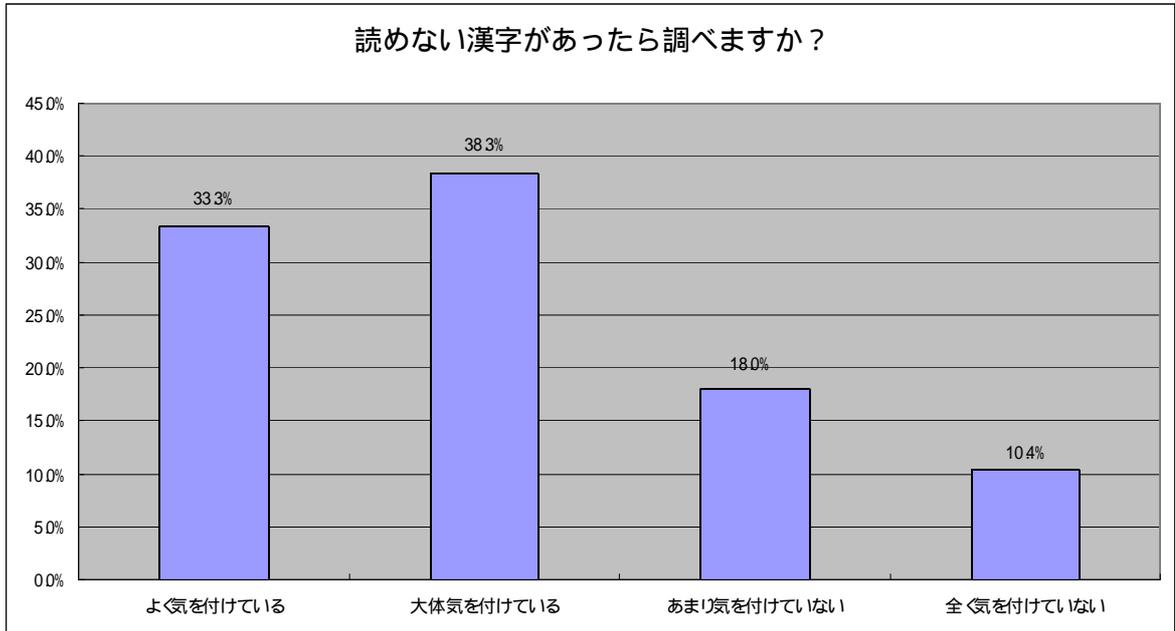
下のグラフは、新出漢字について、自分なりに覚えようと努力するかを尋ねたものである。上記のノート記入の場合と同じように肯定的な回答が目立っている。

日常の新出漢字に対する指導がおおむねうまくいっていることがうかがえる。ただ、「あまり気を付けていない」「全く気を付けていない」と答えている生徒が2割を超えているが、全体的にも漢字についてこのように低い関心しか抱いていない生徒がかなりいることが予想される。これらの生徒については、早急に手立てを講ずる必要がある。



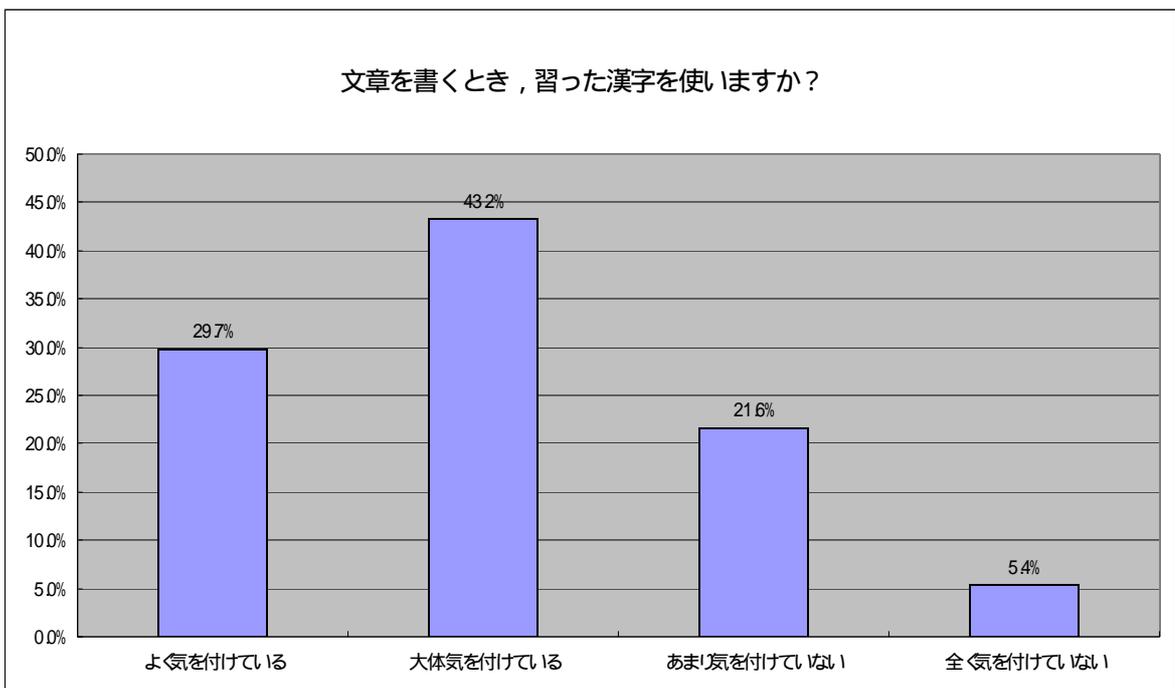
(I) 読めない漢字があったら調べるか？

学習の際に読めない漢字があった場合の対応について尋ねた項目である。これについても、7割以上が「気を付けている」と答えており。漢字学習に対する意識の高さがうかがえる。しかし、これについても3割近くが「気を付けていない」と回答しており、このまま手立てがとられなければ、漢字の力の低下が進んでいくことが予想される。



(オ) 文章を書くとき、習った漢字を使うか？

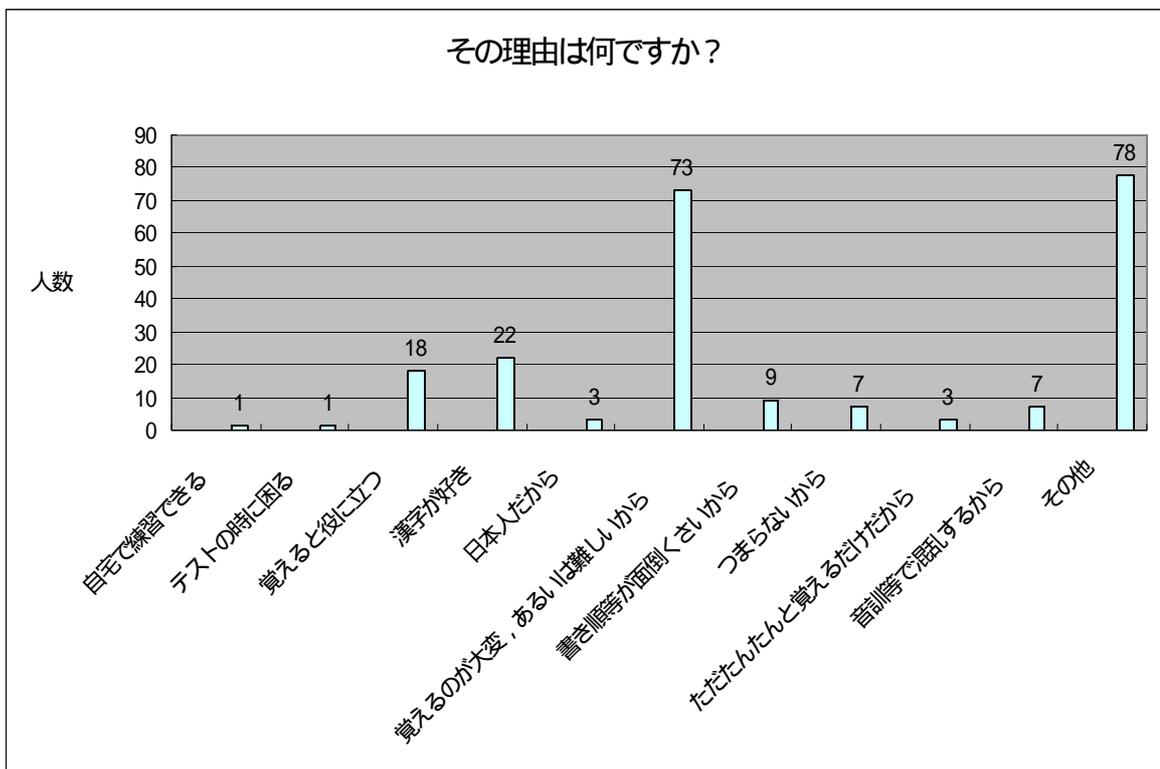
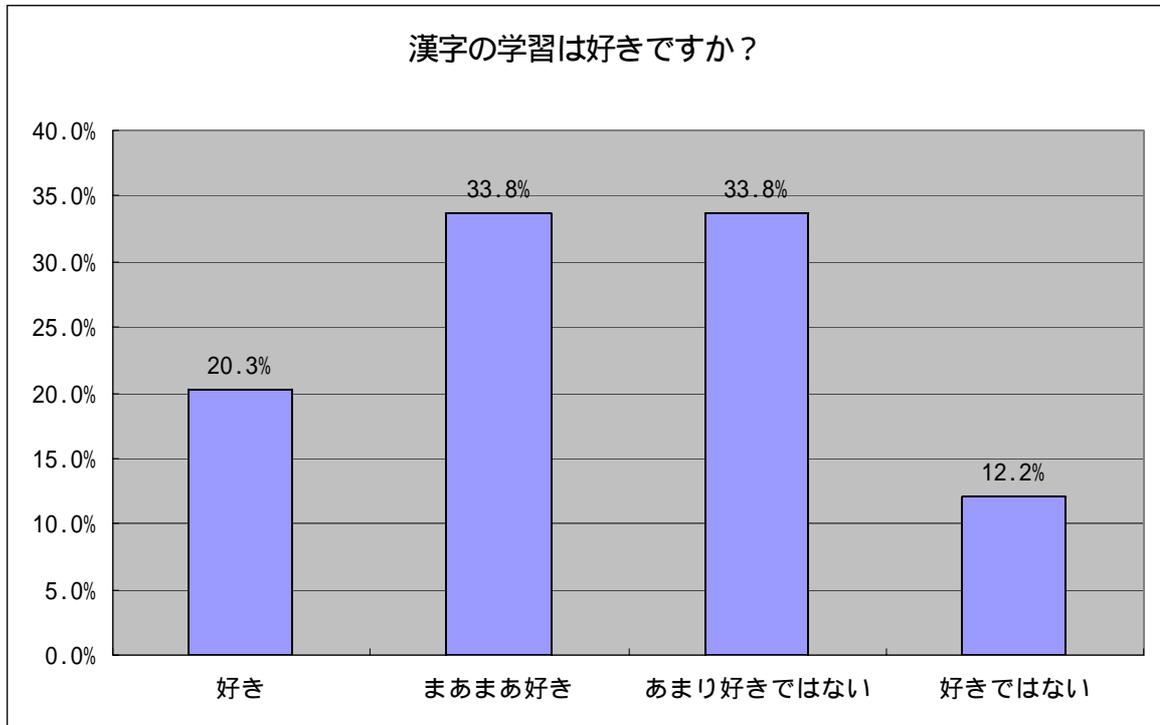
履修した漢字の使用の状況について尋ねているが、「よく気を付けている」と答えている生徒は約3割である。また、同じように3割近くがあまり意識してはいないことがうかがえる。学習した漢字については使用されて初めてその定着が図られるので、この点については改善の必要性があると思われる。



(カ) 漢字の学習は好きか？ また、その理由は何か？

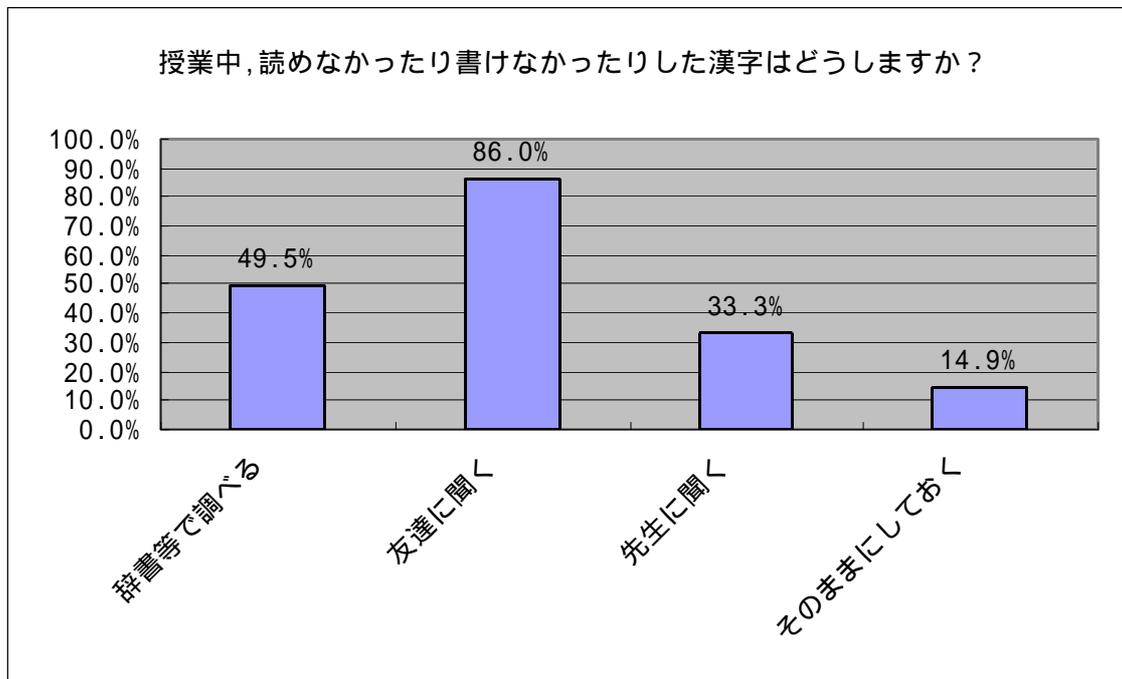
下の結果は漢字の学習に対する意識について尋ねたものである。「あまり好きではない」「好きではない」と答えている生徒が半数近くを占めていることが分かる。

また、その理由として、多数の生徒が「覚えるのが大変」「覚えるのが難しい」と答えている。生徒のこのような苦手意識に配慮した抵抗感の少ない指導法の開発が必要である。



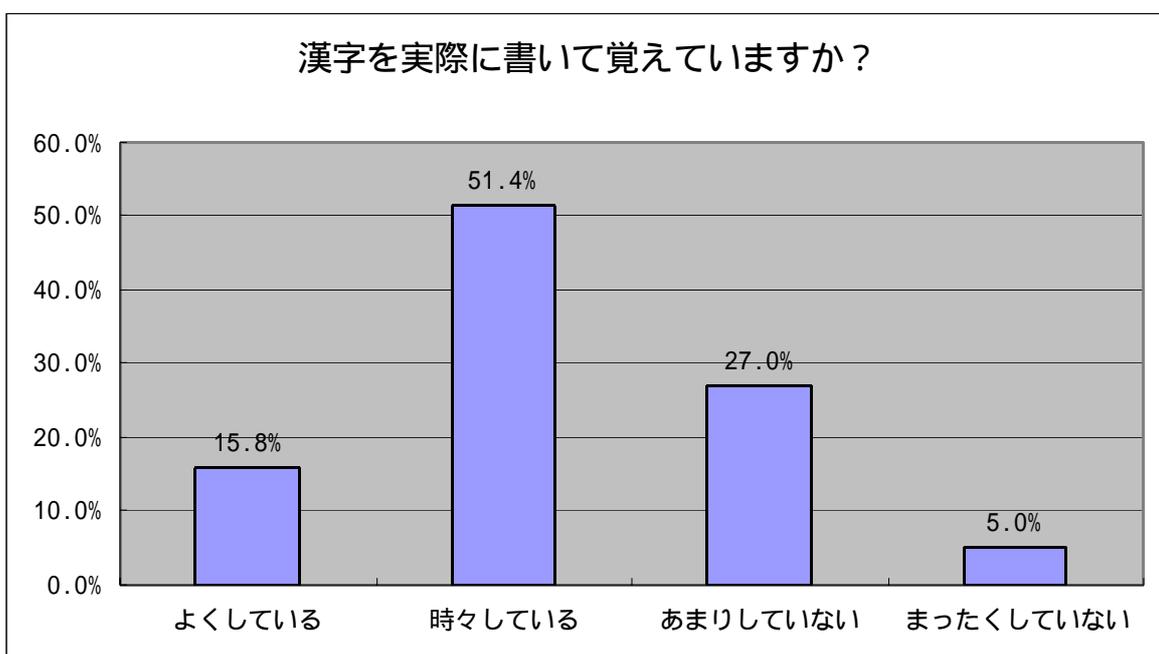
(キ) 読めなかったり書けなかったりした漢字はどうするか？

下の結果は読めなかったり書けなかったりした漢字の処理について尋ねているが、多くの生徒は友達に聞くことが多いことが分かる。ただここでもかなりの生徒がそのままにしておくと答えており対応が望まれる。



(ク) 漢字を書いて覚えているか？

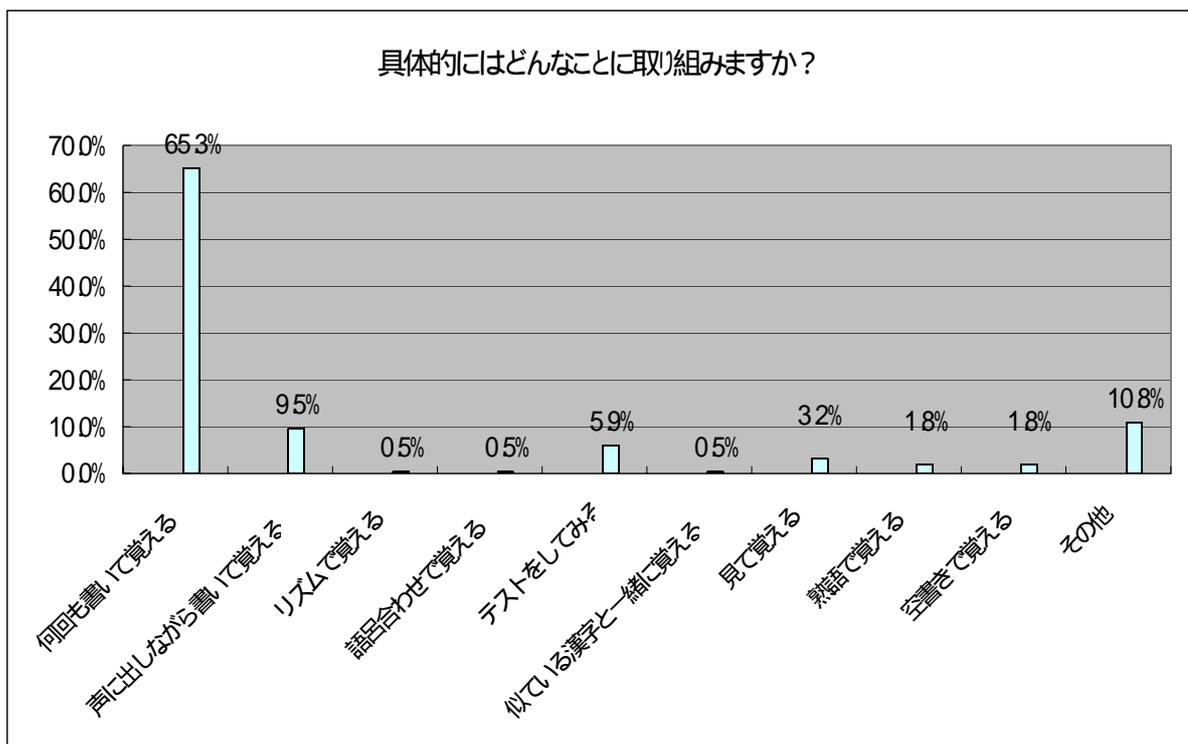
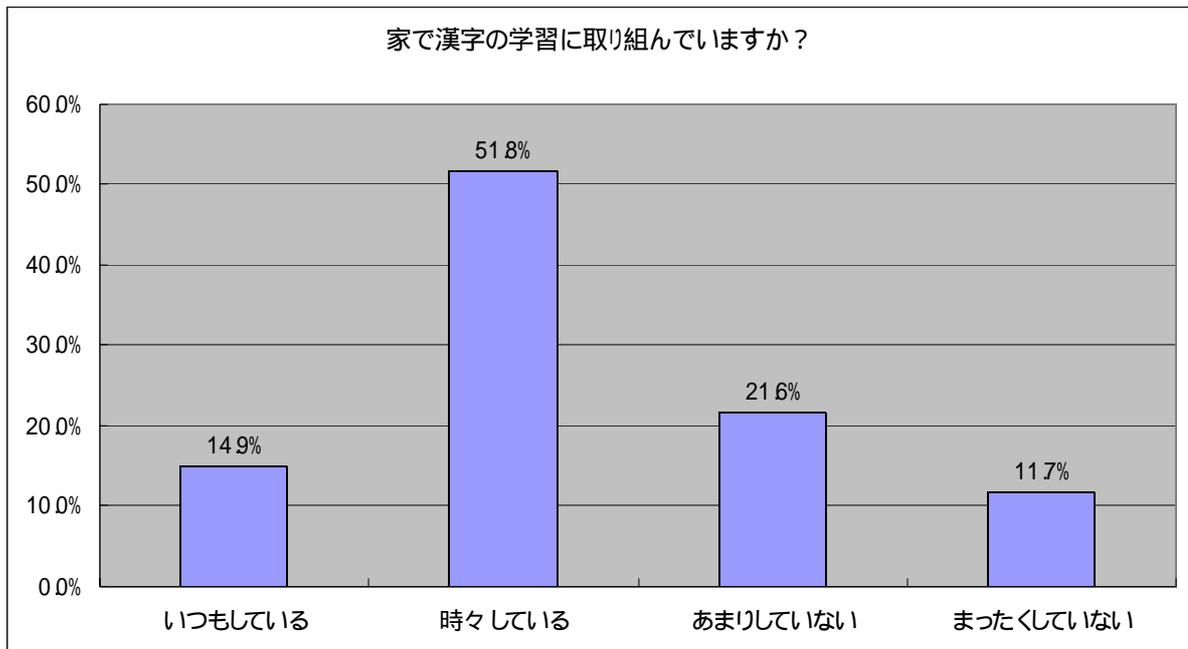
下の結果は漢字を実際に書いて覚えているかを尋ねたものである。「あまりしていない」「全くしていない」を含めるとやはり約3割の生徒の取組が低調であることが分かる。漢字の定着を考える際、実際に書いて覚えるということが重要であるが、これが不足している現状が表れている。



(ケ) 家で漢字の学習に取り組んでいるか？

下の結果は家庭での漢字学習の様子を尋ねたものである。約半数が「時々している」と答えている。また約3割以上の生徒が「あまりしていない」「全くしていない」と答えており、家庭での学習もまだ改善の余地があることがうかがえる。

取組の内容については6割以上が書いて覚えると答えているが、先の項目で実際に書いて覚えるのは時々であると答えた生徒が半数であることから、その効果は十分上がっていないのではないかとと思われる。



イ 漢字の読み書きに関する実態調査

本県の中学校段階での漢字の読み書きの力を把握するために、調査研究協力校の第2学年222名を対象に実態調査を実施した。調査は平成14年7月に行った。内容は小学校4～6年までに学習する漢字の書き、小学校4年から中学校1年の段階までの漢字の読みについて問うものである。以下にその結果を示す。

漢字の読み

漢字の書き

N0	出題語句	学年	正答率(%)	N0	出題語句	学年	正答率(%)
1	見聞(ケンブン)	1・2	83.8	1	観察(カサツ)	4	67.6
2	梅(ハイ)	4	70.3	2	旗(ハタ)	4	21.6
3	得(エ)	4	97.3	3	救(スク)	4	54.1
4	改(アラタ)	4	78.4	4	拳(ア)	4	59.5
5	管(クワン)	4	56.8	5	鏡(カガミ)	4	78.4
6	試(コト)	4	67.6	6	型(カタ)	4	29.7
7	借(シャク)	4	64.9	7	功(コウ)	4	70.3
8	臣(シン)	4	51.4	8	祝(イワ)	4	56.8
9	刷(ス)	4	62.2	9	貯(チヨ)	4	8.1
10	関(セキ)	4	64.9	10	努(ツト)	4	10.8
11	説(ト)	4	83.8	11	票(ヒョウ)	4	43.2
12	連(ツラ)	4	86.5	12	浴(ア)	4	32.4
13	節(フシ)	4	73.0	13	令(レイ)	4	86.5
14	便(ベニ)	4	62.2	14	往復(オウフク)	5	32.4
15	養(ヤウ)	4	73.0	15	額(ヒタイ)	5	21.6
16	老(オ)	4	86.5	16	幹(カン)	5	51.4
17	嘗(チ)	5	81.1	17	基(キ)	5	75.7
18	快(クワイ)	5	46.0	18	寄(キ)	5	8.1
19	経(ケイ)	5	37.8	19	潔(ケツ)	5	40.5
20	興(コウ)	5	86.5	20	混(マ)	5	37.8
21	構(カウ)	5	86.5	21	再(サ)	5	21.6
22	志(コトサシ)	5	75.7	22	険(ケン)	5	48.6
23	境(カイ)	5	81.1	23	準備(ジュンビ)	5	40.5
24	居(キ)	5	83.8	24	織(シ)	5	78.4
25	設(セツ)	5	83.8	25	制(セイ)	5	48.6
26	増(マ)	5	73.0	26	程(テイ)	5	45.9
27	属(ゾク)	5	97.3	27	統(トウ)	5	40.5
28	退(ツイ)	5	48.6	28	務(ツト)	5	21.6
29	肥(ヒ)	5	24.3	29	輪(リン)	5	67.6
30	富(フ)	5	83.8	30	遣(イ)	6	43.2
31	妻(サイ)	5	51.4	31	簡単(カンタン)	6・4	64.9
32	武(ブ)	5	67.6	32	危(アビ)	6	59.5
33	豊(トウ)	5	64.9	33	揮(キ)	6	37.8

N0	出題語句	学年	正答率	N0	出題語句	学年	正答率
34	易(イ)	5	67.6	34	疑(ウカ ^カ)	6	27.0
35	預(ヨ)	5	48.6	35	勤(ツト)	6	54.1
36	沿(ソ)	6	81.1	36	巖(ヒ ^ク)	6	43.2
37	蚕(サ)	6	24.3	37	鋼(コウ)	6	13.5
38	干(カ)	6	43.2	38	穀(コク)	6	21.6
39	敬(ウヤ)	6	64.9	39	就(シュウ)	6	48.6
40	従(シ ^{ユウ})	6	64.9	40	縦(シ ^{ユウ})	6	24.3
41	善(ゼ ^ン)	6	73.0	41	蔵(ゾウ)	6	51.4
42	供(キ)	6	35.1	42	存在(ソゾ ^イ)	6・5	70.3
43	著(チョ)	6	75.7	43	賃(チ)	6	18.9
44	納(ノウ)	6	70.3	44	派(ハ)	6	24.3
45	奮(フ)	6	97.3	45	拝(オ ^カ)	6	10.8
46	窓(マ)	6	35.1	46	批(ヒ)	6	56.8
47	私(ワタクシ)	6	18.9	47	秘密(ヒミツ)	6	67.6
48	逃(ニ)	中1	70.3	48	補(オキ ^ナ)	6	54.1
49	企(クワ ^タ)	中1	8.1	49	覧(ラン)	6	24.3
50	勸(ス)	中1	70.3	50	臨(リン)	6	45.9
51	慮(リョ)	中1	67.6				
52	尋(タ ^ス)	中1	97.3				
53	搬(ハ ^ン)	中1	94.6				
54	響(ヒ ^ク)	中1	94.6				
55	縁(フ)	中1	37.8				
56	顧(カ ^リ)	中1	10.8				
57	敢(カ)	中1	73.0				
58	載(サイ)	中1	81.1				
59	暇(ヒマ)	中1	89.2				
60	網(アミ)	中1	75.7				

(7) 漢字の読み書きに関する学習状況の特徴とその対策

a 音の読み書きに比べ、訓の読み書きの定着が不十分である。

音の読みの平均正答率…… 68.1%

訓の読みの平均正答率…… 65.8%

音の書きの平均正答率…… 45.0%

訓の読みの平均正答率…… 40.1%

新出漢字等の学習の際には、教科書の本文に出てくる音(訓)だけでなく、他の読みに関しても関連して指導する必要がある。

b 日常使用する頻度の低い読み書きについては定着の度合いが低い。

例 肥える (24.3%) 経る (37.8%) 養蚕 (24.3%) 企て (8.1%) 等

()内は正答率

ここにあげた以外の音訓の読みについては、これほど低い値にはなっていないので、このような音訓の読み書きについても取り上げて指導を行う必要がある。

c 同じ読みをする語が他にある場合は定着の度合いが低い。

例 勤める (54.1%) 務める (21.6%) 努める (10.8%) 型 (29.7%) 寄 (8.1%) 等

()内は正答率

このように同音や同訓の漢字が他にあり、誤用される可能性が高い漢字についてはそれを洗い出すとともに、その意味の違いや使用法について詳しく取り上げ、指導を行う必要がある。

d 間違えやすい形の漢字は定着の度合いが低い。

例 拝 (24.3%) 旗 (21.6%) 穀 (21.6%) 遺 (43.2%) 等

()内は正答率

上にあげた漢字のようにその形が特徴を持っている場合、誤ってその形を覚えてしまっていることが予想される。このような漢字の学習を行う際には、その漢字の特徴をしっかりと押さえ、正しく定着が図られるよう留意する必要がある。

e 似た意味を持つ漢字が他にある場合は、その漢字の定着の度合いが低い。

例 快い (46.0%) 心地よい 預 (48.6%) 貯 (8.1%) 混 (37.8%) 交 等

()内は正答率

上記の漢字の例のように、他に似た意味を持っている漢字がある場合は、誤ってその字を覚えてしまう可能性が考えられる。このような場合には、双方の漢字を熟語の形で覚えさせ、その使用法の違いをしっかりとつかませる必要がある。

今回の調査では、漢字の読み書きとも小学校段階の漢字を中心に出题している。しかし、その結果を見ると、中に定着の度合いが十分でないもののがかなりあることが分かる。中学校においても、小学校で学習した漢字について、計画的に学習を進め、その定着を図る必要があることが分かる。

(3) 実態をもとにした具体的な取組

上記の結果をもとに、漢字の定着を図るための方策を考えることにした。具体的には、ある単元を取り上げ、その学習全体を通じて計画的に学習を進めることにした。ここでは、中学校第2学年の2学期の単元である「さまざまな情報を役立てよう」を用い、新出漢字を中心とした実際の読解に必要な漢字の読み書きの力の育成と、小学校段階での漢字の学習の定着を図るための毎日5分程度の帯単元的な学習（朝自習や授業中の活用）を行っていくことにした。

イ 小学校段階で学習した漢字の読み書きの定着を図る帯单元的な学習の取組

実態調査の結果から、小学校で学習する漢字の読み書きの定着がまだ不十分であることが予想される。そこで、この実態に対応するための手立てを講ずる必要がある。本来であれば、時間をかけ小学校で学習した内容を繰り返すことが最も効果的であるはずだが、時間的な制約から、この方法はあまり現実的とは言えない。そこで、朝自習の一部の時間や授業中の一部の時間を用いた毎日5分の帯单元的な学習を取り入れることにした。

プリントの内容を厳選し、ポイントを押さえた効果的なものにすることによって、無理なく、本来の朝自習と抱き合わせにしたり、授業中のちょっとした合間に活用することができる。下にその学習に用いたプリント例を示すが、プリントを作成する際には、取り組ませる漢字を精選するとともに、どのような問題にすることが、漢字の読み書きの定着につながるのかをしっかりと見極めておく必要がある。

また、学習した内容をより定着させるために、プリントを国語のノートにはらせ、自分の覚えていない漢字を認識させるとともに、指導する際に、教師が必要に応じて活用できるようにしておく。

家庭学習と関連させる観点から、間違った問題や分からなかった問題については、家庭でもう一度何度か書いて覚えるなど、取り組むよう指導することで、より定着が図られるものと思われる。

漢字の学習7	名前()
1 次のカタカナの部分に別の漢字を入れて短文を二つ作りなさい。	
ア ヤ マ ル	
2 蔵と臈を使った熟語をそれぞれ二つずつ書きなさい。	
蔵	<input type="text"/> <input type="text"/>
臈	<input type="text"/> <input type="text"/>
漢字の学習8	名前()
次の発音をもつ熟語をできるだけたくさんあげなさい。	
コ ウ コ ウ	<input type="text"/>

ウ 漢字学習への興味・関心をはぐくむ手立て

漢字学習はともすれば同じ漢字を何度も書くなどの単調な取組を生徒が連想し、学習自体へのマイナスイメージにつながりがちである。そこで、学習に当たっては、実際の言語生活に即して具体的な使用例等を体感できるよう工夫するとともに、学習したことが今後の社会生活の中で生かされていくことを生徒に理解させることが必要である。

また、これまで述べてきたようなプリント等を活用した学習を行っていく際にも、生徒たちが意欲を継続できるように、視点を変えたり、生徒の意欲を喚起するような手立てを盛り込んでいく必要がある。

次に示すのは、漢字の部首と読みからどれだけ多くの漢字を考えることができるかを、友達同士で競い合い、読み書きを習得することを目的にしたプリントの例である。このようなことを、定期的に取り入れていくことによって、生徒の漢字学習に対する意欲の継続が図られていくものと思われる。

同じ部首をもつ漢字を4つ書きなさい。

課				
枯				
宇				
道				
麻				
晴				
作				
綱				

同じ部首をもつ漢字を4つ書きなさい。

泳				
徳				
際				
露				
福				
簡				
礎				
貧				

次の読みをもつ漢字を5つ書きなさい。

ショウ					
コウ					
セン					
シ					
カイ					
シュウ					
セキ					

(4) 実践効果の検証を目的とした実態調査

これまで述べてきた漢字の読み書きの定着を図る手立てについて、どれだけ効果を上げることができたのか、その検証を行うため、すべての取組が終了した12月上旬の段階で、調査研究協力学校において、再び、実態調査を行った。調査の内容は7月に実施した内容を再び問う形で実施したが、問題順を大きく入れ替えるなど、できるだけ単なる記憶による効果が現れないよう配慮した。調査対象は前回と同じ第2学年全員である。

ア 漢字の読み書きに関する実態調査結果（7月実施と12月実施との結果比較）

漢字の読み						漢字の書き					
N0	出題語句	学年	7月	12月	比較	N0	出題語句	学年	7月	12月	比較
1	見聞(ケンブン)	1・2	83.8	86.2	2.4	1	観察(カサツ)	4	67.6	71.3	3.7
2	梅(ハイ)	4	70.3	60.9	-9.4	2	旗(ハタ)	4	21.6	35.6	14.0
3	得(イ)	4	97.3	94.2	-3.1	3	救(ス)	4	54.1	70.1	16.0
4	改(アタ)	4	78.4	79.3	0.9	4	拳(ア)	4	59.5	87.4	27.9
5	管(クワン)	4	56.8	71.3	14.5	5	鏡(カガミ)	4	78.4	81.6	3.2
6	試(コト)	4	67.6	83.9	16.3	6	型(カタ)	4	29.7	40.2	10.5
7	借(シャク)	4	64.9	80.0	15.1	7	功(コウ)	4	70.3	78.2	7.9
8	臣(シン)	4	51.4	44.7	-6.7	8	祝(イワ)	4	56.8	77.0	20.2
9	刷(ス)	4	62.2	69.4	7.2	9	貯(チヨ)	4	8.1	17.2	9.1
10	関(ケン)	4	64.9	67.1	2.2	10	努(ツト)	4	10.8	24.1	13.3
11	説(ト)	4	83.8	78.8	-5.0	11	票(ヒョウ)	4	43.2	43.7	0.5
12	連(ツラ)	4	86.5	89.4	2.9	12	浴(ア)	4	32.4	63.2	30.8
13	節(フシ)	4	73.0	78.8	5.8	13	令(レイ)	4	86.5	89.7	3.2
14	便(ベン)	4	62.2	75.3	13.1	14	往復(オウフク)	5	32.4	43.7	11.3
15	養(ヤウ)	4	73.0	81.2	8.2	15	額(ビタイ)	5	21.6	44.8	23.2
16	老(オ)	4	86.5	92.9	6.4	16	幹(カン)	5	51.4	57.5	6.1
17	嘗(チヤウ)	5	81.1	87.1	6.0	17	基(キ)	5	75.7	95.4	19.7
18	快(クワイ)	5	46.0	60.0	14.0	18	寄(キ)	5	8.1	21.8	13.7
19	経(ケイ)	5	37.8	56.5	18.7	19	潔(ケツ)	5	40.5	60.9	20.4
20	興(コウ)	5	86.5	78.8	-7.7	20	混(コン)	5	37.8	77.0	39.2
21	構(コウ)	5	86.5	85.9	-0.6	21	再(サイ)	5	21.6	25.3	3.7
22	志(コトサシ)	5	75.7	84.7	9.0	22	険(ケン)	5	48.6	67.8	19.2
23	境(ケイ)	5	81.1	80.0	-1.1	23	準備(ジュンビ)	5	40.5	86.2	45.7
24	居(キョ)	5	83.8	94.1	10.3	24	織(オリ)	5	78.4	83.9	5.5
25	設(セツ)	5	83.8	81.1	-2.7	25	制(セイ)	5	48.6	27.6	-21.0
26	増(ゾウ)	5	73.0	82.4	9.4	26	程(テイ)	5	45.9	57.5	11.6
27	属(ゾク)	5	97.3	98.8	1.5	27	統(トウ)	5	40.5	69.0	28.5
28	退(ツイ)	5	48.6	76.5	27.9	28	務(ツト)	5	21.6	42.5	20.9
29	肥(ヒ)	5	24.3	42.4	18.1	29	輪(リン)	5	67.6	73.6	6.0
30	富(フ)	5	83.8	70.6	-13.2	30	遺(イ)	6	43.2	60.9	17.7
31	妻(サイ)	5	51.4	80.0	28.6	31	簡単(カンタン)	6 4	64.9	86.2	21.3
32	武(ブ)	5	67.6	72.9	5.3	32	危(アビ)	6	59.5	90.8	31.3
33	豊(トウ)	5	64.9	52.9	-12.0	33	揮(キ)	6	37.8	47.1	9.3

N0	出題語句	学年	7月	12月	増減		N0	出題語句	学年	7月	12月	増減	
34	易(イ)	5	67.6	75.3	7.7		34	疑(ウガ)	6	27.0	41.4	14.4	
35	預(ヨ)	5	48.6	56.5	7.9		35	勤(ツト)	6	54.1	73.6	19.5	
36	沿(ソ)	6	81.1	91.8	10.7		36	敵(ヒ)	6	43.2	87.4	44.2	
37	蚕(サ)	6	24.3	38.8	14.5		37	鋼(コウ)	6	13.5	17.2	3.7	
38	干(カン)	6	43.2	70.6	27.4		38	穀(コク)	6	21.6	45.9	24.3	
39	敬(ウヤマ)	6	64.9	72.9	8.0		39	就(シュウ)	6	48.6	71.3	22.7	
40	従(シユウ)	6	64.9	71.8	6.9		40	縦(シユウ)	6	24.3	16.1	-8.2	
41	善(ゼン)	6	73.0	87.1	14.1		41	蔵(ゾウ)	6	51.4	71.3	19.9	
42	供(キ)	6	35.1	65.9	30.8		42	存在(ソザイ)	6・5	70.3	85.1	14.8	
43	著(チョ)	6	75.7	76.5	0.8		43	賃(チン)	6	18.9	89.7	70.8	
44	納(ノウ)	6	70.3	80.0	9.7		44	派(ハ)	6	24.3	57.5	33.2	
45	奮(フン)	6	97.3	98.8	1.5		45	拝(オガ)	6	10.8	48.3	37.5	
46	窓(ソウ)	6	35.1	57.6	22.5		46	批(ヒ)	6	56.8	64.4	7.6	
47	私(ワタクシ)	6	18.9	31.8	12.9		47	秘密(ヒミツ)	6	67.6	74.7	7.1	
48	逃(ニ)	中1	70.3	65.9	-4.4		48	補(オナ)	6	54.1	79.3	25.2	
49	企(クワダ)	中1	8.1	42.4	34.3		49	覧(ラン)	6	24.3	69.0	44.7	
50	勸(ス)	中1	70.3	61.1	-9.2		50	臨(リン)	6	45.9	58.6	12.7	
51	慮(リョ)	中1	67.6	84.7	17.1		<p>は12月正答率平均 - 7月正答率平均がプラスのものは12月正答率平均 - 7月正答率平均がマイナスのもの</p> <p>語句の欄の後の記号は、帯単元的に実施した学習の中で取り上げた活動を表している。</p> <p>は5回書き</p> <p>は書き取り</p> <p>は短文づくり</p> <p>は取り立て指導</p>						
52	尋(タ)	中1	97.3	97.6	0.3								
53	搬(ハン)	中1	94.6	94.1	-0.5								
54	響(ヒビ)	中1	94.6	98.8	4.2								
55	縁(フ)	中1	37.8	51.8	14.0								
56	顧(カリ)	中1	10.8	28.2	17.4								
57	敢(カン)	中1	73.0	82.4	9.4								
58	載(サイ)	中1	81.1	91.8	10.7								
59	暇(ヒマ)	中1	89.2	91.8	2.6								
60	網(アミ)	中1	75.7	88.2	12.5								

何らかの手立てをとった場合ととらなかった場合の結果（平均）の比較

漢字の読み		漢字の書き	
手立てをとらなかった場合	6.7 の増加	手立てをとらなかった場合	14.3の増加
手立てをとった場合	12.4の増加	手立てをとった場合	22.0の増加

この結果を見ると、今回行ってきた取組について、ある程度の効果があったものと判断できる。

以下に、特に特徴的な結果について述べる。

イ 二つの実態調査の結果から

今回，取り上げた漢字の中で大きく改善が図られたものとして次のものがあげられる。

浴びる

7月の時点の調査では，「沿」と間違っただけで答えた生徒が多かったが，これを単元的な学習で取り上げることによって，30.8%正答率が向上している。

混じる

7月の時点の調査では，無解答もしくは「交じる」と答える生徒が多かったが，短文作りの設定で取り組ませることによって，39.2%正答率が向上している。

危ない

7月の時点の調査では，無解答もしくは二画目の終わりを内側に払っている誤答が目立った。これについても単元的な学習で取り上げるとともに，授業で取り組んだワークシートの中で特に間違えやすい漢字として取り上げて指導を行ったことで，正答率が31.3%向上している。

賃金

7月の時点の調査では，無解答もしくは，「資」「貢」等の誤答が目立った。これについても，似た組み立ての多い漢字として授業中のワークシートで取り立てて指導を行うことによって18.9%から89.7%へと大きく70.8%正答率の向上が見られた。

漢字の取り上げ方等により，若干違いは見られるが，取り上げた漢字についてはおおむね改善が見られた。

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・ 漢字の読み書きの定着について，その状況を詳しく分析し，効果的な取組を行っていくことによってその定着の改善が図られることが確かめられた。
- ・ 使用するワークシート類の内容を厳選するとともに，学習の方法を工夫することによって，時間的にも無理なく，漢字の読み書きの定着に取り組むことができることが確かめられた。

(2) 課題

- ・ 今回のような取組に効果があることは確かめられたが，具体的にどのような学習をさせることが最も効果的であるのか，さらに詳しく分析と検証を行っていく必要がある。
- ・ 家庭学習との関連をさらに進め，より効果的に定着が図られるよう工夫する必要がある。
- ・ 今回は，第2学年の1つの単元についてのみの取組であったが，これを全学年に広げるとともに，中学校段階を通じて学習に利用できるワークシート例を全県的に作成する等，具体的な取組を講じる必要がある。

参考文献	生きる力が育つ漢字の学習 「小学校学年別配当漢字の習得状況に関する調査研究」 中学校学習指導要領 解説 国語編	日本教材文化研究財団 文部科学省
------	---	---------------------